般演題

## O1-027

# 幼稚園年長園児の健康診断結果が示すもの - 乳歯う蝕ならびに肥満とやせについて-

中山 真理<sup>1,2</sup>、細見 環<sup>2</sup>、畠中 能子<sup>2</sup>

- '埼玉県立大学 健康開発学科口腔保健科学専攻、
- 2関西女子短期大学 歯科衛生学科

#### 【目的】

口腔と全身との不可分な結びつきが徐々に解明される中、 中年期に肥満しない基盤として小児期から肥満しにくい身 体にすること、子どもの口の中に起こ乳歯う蝕の罹患とを あわせて管理することは意義あることと考えられる。幼稚 園児年長園児の健康診断結果を整理・分析することから、 就学前の身体の発育をあらわす肥満・やせの傾向ならびに 乳歯う蝕の罹患状況を把握し、関連を考察した。

#### 【方法】

大阪府内某幼稚園で実施される定期健康診断結果を資料と して用いた。3歳から5歳まで某幼稚園に3年間通園した313 名の年少3歳時ならびに年長5歳時の結果である。

1)3、5歳時の身長・体重を用いて肥満度を算出した。

2)3、5歳時の一人平均乳歯う蝕経験歯数dftを算出して肥満 度分類間で比較した。さらに肥満度分類ごとの3歳から5歳 にかけてのdft増加量を検討した。本研究は埼玉県立大学倫 理委員会の承認を得ておこなっている。

#### 【結果】

3歳時313名中10名に肥満傾向がみられ、7名は5歳時でも肥 満傾向が続いた。3歳時ふつうに該当していた9名は肥満傾 向に移り、5歳時では16名に増加した。痩身傾向児の出現 はみられなかった。3歳から5歳にかけて大多数271名はふ つう区分+10%未満-10%未満範囲で体格を発育させてお り、残り42名は肥満傾向を継続、ふつうから肥満傾向へ、 肥満傾向からふつうへとバラついた移動を示した。肥満度 分類ごとの一人平均乳歯う蝕経験歯数dftは肥満傾向が続く 園児3歳時0本、5歳時0.42本がもっとも低く、反対にふつう から肥満傾向に移動した園児とふつうからふつう高に移っ た園児が3歳時2.55本、2.1本、5歳時4.77本、4.9本と高かっ た。3歳時、5歳時ともに統計的な有意差を認めている。ふ つうから肥満傾向へ、ふつうからふつう高へ移った園児の 3歳から5歳にかけてのdft増加量には統計的な有意差は認め られず、3歳時すでに乳歯う蝕を多く発生している傾向を 示した。

### 【考察】

限られた地域の限られた人数の結果ではあるが、肥満傾向 を継続する園児ではなく、肥満傾向に移るもしくは周囲や 本人が気づきにくい程度で肥満度が増加した園児に乳歯う 蝕が多い傾向が示された。子どもの生活習慣病対策に予防 的な側面が大きな意味を持つならば、明らかに肥満傾向を 示す園児以外に小児肥満の成人に向けたトラッキングのは じまりを示すリスクと、口腔内状況を悪化させるリスクが 共存している集団の存在が示唆された。